

くらしと協同の研究所
第19回総会 議案書

開催日：2011年6月25日(土) 午後6時40分～7時15分

※ 総会記念シンポジウムは、午後1時～開催です。

(詳細は、別紙案内をご覧ください)

会場：コープイン京都

京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル (Tel 075-256-6600)



くらしと協同の研究所

〒604-0851

京都市中京区烏丸通夷川西九軒町 291 せいきょう会館内

TEL 075-256-3335 FAX 075-211-5037

Email kki@ma1.seikyou.ne.jp (← ma1 の 1 は数字です)

URL <http://ha1.seikyou.ne.jp/home/kki/>

第 19 回総会議案と議事次第

議 案	第1号議案	2010年度 活動のまとめ、会計報告
	第2号議案	2011年度 活動方針及び予算
	第3号議案	19期～20期役員選任の件

議事次第	一、開会挨拶と議長確認	
	二、議事録署名人の選出	
	三、議案提案と審議、採決	
	第1号議案、第2号議案	3号議案の提案
	同	審議
	同	採決
	四、閉会の挨拶	

※総会終了後、懇親交流会を開催いたします。

第19回総会を迎えるにあたって

理事長 的場 信樹

東日本大震災に被災された方々、未だに困難な生活を強いられている方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回の大震災と津波、そして原発事故によって、亡くなったり行方不明になったりした方々が2万5000人余り、避難中の方々が13万人余りを数え、福島第1原発の放射能漏れについても目処がまったく立っていない。3月11日は今でも進行中なのである。このような時点で言うべきこと、言えることはおのずから限られている。本来であれば協同組合運動と当研究所が直面している課題を整理し、これからの1年間を展望すべきところであるが、ここでは必要最低限の論点を確認することにとどめておきたい。

3月11日以後は今までと同じではいられない。これが枕詞まくらことばのように、さまざまな場面で使われている。原発政策も災害対策も都市計画も財政再建も根本的に変わらなければならないことは明らかである。しかし本当に変わるべきは、この20年間指摘されてきたにもかかわらず変わっていない日本の構造問題である。海外メディアでは、原発事故の深刻化を受けて、「産官学の癒着構造」「集団主義の二重性」という言葉も使われたりしている。構造問題はいずれ変わらざるを得ない。問題はいつどのようにして変わるのかということであるが、この機に及んでもなお、かなり長期にわたるのではないかという見方がある。

日本の協同組合運動も当然この構造問題に組み込まれている。例えば、この1年間研究所で取り上げてきたTPP（環太平洋戦略的経済協定）にしても、この構造問題に決着をつけないかぎり、TPPがいつまでも政局の道具として使われ、本格的な議論に入っていけないのではないかと感じられる。これは農業・食糧問題にとどまらず、流通政策や協同組合法制についても同じである。こうした状況のもとで活動している日本の協同組合運動が長期的な展望やビジョンを打ち出しにくくなっていることは理解できる。

しかし、今地域では、少子高齢化が進行し、むしろ都市で過疎化が深刻だと言われたり、職場では人間関係の構築や仕事の継承ができなくなっていると言われたりしている。しかも今はまだその入り口に過ぎない。社会の安定装置であったコミュニティと企業（組織）が揺らいであるのである。こうした事態にたいして日本の協同組合運動がどのような社会像を打ち出していけるのか、これが10年後の姿を決めることになる。あえて生協の10年後をにらんだ展望やビジョン、そのための生協アイデンティティの構築に取り掛かる必要性を強調したい。そのための問題提起を発信し続けられる研究所となること、これが創立20年を迎える研究所の新たな10年に向けた目標となる。

(第1号議案)

2010年度 活動のまとめ、会計報告

I. 全体まとめ

1. 国際協同組合年を前にして、「非営利・協同」や生協に何が求められているのか、何ができるのかを、「理念・原則」と「現実」から考えようというねらいで、研究委員会や運営委員会の機会も活かして論議し、総会記念シンポジウムの企画を具体化してきました。そのような中で東日本大震災が発生し、惨禍は未曾有のものとなりました。国際協同組合年の趣旨は、格差や貧困、戦争や天災その他によって疲弊した社会を立て直し、発展させるために、協同組合を活用することを世界はもっと考えなくてはならないというものでした。東日本大震災によって、これらのテーマは日本の協同組合にとってはまさに直面する課題となりました。大震災後の日本社会やくらしのありかたをどうしていくのかが問われており、「協同組合による新たな“つながり”づくり」のテーマは今回のシンポジウムにとどまるものではなく、今後も理念と現実の両面からさらに掘り下げ、継続的な研究につなげていくことの重要性を確認しています、そのなかで、協同組合や生協の位置をはじめ何がもとめられているのかを明らかにしていきたいと思います。
2. 昨年の総会後の企画委員会で、研究者と実践家との情報や問題意識のずれが指摘され、研究者と実践家で構成している企画委員会を強化する中で、会員生協にとって役立つ研究所にしよう論議をすすめてきました。団体会員、研究者ともに企画委員を増強し、委員会での論議も実践事例の発表もおこなわれながら、骨格になる研究課題につなげようすすめてきました。その中で「職員と組合員とが一緒に考え実践する協働労働について」や「学習する組織論」「地域におけるネットワークの考察」などの研究テーマが浮上しています。研究所として核となる研究課題を明確にしていくために、さらなる論議が求められています。
3. 姫路医療生協から調査の依頼があり、研究所としては積極的にとらえ、調査のすすめかたを検討してきました。依頼されているテーマは、2030年超高齢社会への生協の対応や職員の働き方、「地域包括ケア」はじめ政策、制度の見極めや先取り、人材育成システムの構築などです。医療生協にとどまらない重要なテーマであり、スタディツアーや公開研究会なども通じて、課題をより明確にして、必要な調査や研究の具体化を検討しているところです。
4. セミナー企画としては「組合員理事トップセミナー」を企画し、「理念」や「原則」から学ぶということを中心にして開催し、参加組合員理事から高評価を得ています。呼びかけ人が「組合員理事がどんな力を身につけたいか、迷っていることは何か」の視点で企画を具体化していることと、研究所の研究者がそれに応えようと工夫してい

ることに支えられ成果がでていいると考えられます。組合員理事の期待に応え、今年のセミナー企画の具体化をすすめていくことが求められています。その際、国際協同組合年を直前に控えていることを踏まえ、そこにつなげる企画にしていきます。

5. 特別研究会「くらしの調査PJ」の報告書を発行しました。実践家と研究者の共同研究の実践例として、今後の共同研究に活かしていく教訓が生まれています。また、久々に自主研究会が3つ誕生しました。骨格となる研究会の具体化とともに、自主研究会の発展方向について検討します。
6. 会員への情報提供や出版については、「協う」は毎回、情勢や会員の関心にあったテーマで充実してきています。さらに多くの方に読んでいただくことで、「研究所」やその活動の「見える化」をしていきます。また、「協う」の雑誌形態化について具体化していくことが検討課題になっています。

II. 第18回総会シンポジウム・セミナー・研究企画

(1) 第18回総会記念シンポジウム(2010年6/26・27)の開催

■総参加人数(申込数) 225人

1日目【6/26】 記念講演 約196人

～持続可能な地域社会と新たな協同の可能性～ 植田和弘氏 京都大学

第1分科会 40人

テーマ: 組合員とその家族への多様なアプローチ

コーディネーター: 中川 順子氏 (当研究所研究委員 立命館大学教授)

報告: 玉置 了氏 (当研究所研究委員 近畿大学准教授)

吉村 恵氏 (女性と仕事研究所 研究員)

第2分科会 38人

テーマ: 生協・協同組合が『食と農をつなぐ』ということ。

コーディネーター: 北川 太一氏 (当研究所研究委員 福井県立大学教授)

報告: 福永 晋介氏 (京都生活協同組合 産直・地産地消担当)

力石 さち氏 (料理研究家)

コメンテーター: 朝倉 裕貴氏 (当研究所会員・「食の懇話会」メンバー)

原田 英美氏 (京都大学大学院)

第3分科会 38人

テーマ: 地域で福祉の“つながり”づくり

コーディネーター: 上掛 利博氏 (当研究所研究委員会代表 京都府立大学教授)

報告: 向井 忍氏 (生活協同組合コープあいち参与)

箕浦明海氏 (生活協同組合コープあいち小幡店店長)

有吉 政博氏 (生活協同組合コープやまぐち理事長)

第4分科会 26人

テーマ: 持続可能な社会と生協の環境対応

コーディネーター: 的場 信樹氏 (当研究所理事長 佛教大学教授)

報告: 原 強氏 (当研究所研究委員 コンシューマーズ京都理事長)

大沢 年一氏 (日本生活協同組合連合会 環境事業推進室室長)

第5分科会 56人

テーマ: 生協経営のあり方を考える

コーディネーター：若林 靖永氏（当研究所研究委員 京都大学大学院教授）
報告：若林靖永（当研究所常任理事 京都大学大学院教授）
二場邦彦（当研究所理事 立命館大学名誉教授）
仲田正機（当研究所会員 京都橘大学教授）
齋藤雅通（当研究所研究委員 立命館大学教授）
細川 孝（当研究所会員 龍谷大学教授）
計 198 人（分科会計）

（第 18 回総会 委任 117 人 実出席 54 人 計 171 人）（懇親会 101 人）

2 日目【6/27】 パネルディスカッション 124 人

テーマ：くらしの変化と協同組合の社会制度への関心

コーディネーター：上掛 利博氏（当研究所研究委員会代表 京都府立大学教授）

パネリスト 中川 順子氏（当研究所研究委員 立命館大学教授）

北川 太一氏（当研究所研究委員 福井県立大学教授）

的場 信樹氏（当研究所理事長 佛教大学教授）

二場 邦彦氏（当研究所研究委員 立命館大学名誉教授 京都生協理事長）

(2) 第 19 回総会記念シンポジウム（2011 年 6/25・26）の準備

杉本貴志氏（当研究所理事、研究委員 関西大学教授）を実行委員長に、運営委員会と企画委員会を中心に企画構想などについて論議、検討してきました。また、問題提起の先生には事前に話題提供をいただき、論点の整理に努めました。準備の過程で東日本大震災が発生しましたが、被災地生協の方々のご協力もあり、特別報告や特別分科会を企画することができました。

①11月6日（土） 第1回研究委員会

京都生協からの報告（中期計画など）をもとに事例研究

②1/月22日（土）第2回研究委員会

【話題提供】

I 《公益性における協同組合の可能性と課題

～相互性と協同の契機から～

堀越芳昭氏（山梨学院大学 経営情報学部経営情報学科、
大学院社会科学部研究科 教授）

II 《地域の「きずな」づくりと生協～子育て支援にみる活動事例～》

近本聡子氏（公益財団法人 生協総合研究所 研究員、
都留文科大学 社会学科講師）

③2月18日（金）運営委員会

【話題提供】

テーマ：＜協同労働と生協 働く人々が育む「きずな」づくり＞

生協（職員）労働の現状と課題、生協職員の働き甲斐や働き方の視点から
講師 岡安喜三郎氏（協同総合研究所）

④3月18日（金）運営委員会

【話題提供】

テーマ <協同のまちづくりと生協～地域に「きずな」づくりの視点から>

講師 橋本吉広氏（地域と協同の研究センター）

⑤4月9日（土）研究委員会

【話題提供】

テーマ <生協は生産者にどう向き合うか～産直、協同組合間提携の歴史と課題>

講師 増田佳昭氏（滋賀県立大学環境学部）

(3) 第12回生協組合員理事トップセミナー

①呼びかけ人会議を計6回開催し、企画内容などを議論、検討し企画を確定しました。

②参加：48名 18生協（内、団体会員11）

Ⅲ. 研究会

(1) 特別研究会 「くらしの調査PJ」 座長：玉置了氏（近畿大学）、ほか5名

①7/23、8/26、9/24、10/29 にまとめと報告書作成の準備を行い 11月に報告書を発行しました。

②11年3/24の企画委員会の場で報告し、研究者と実践家の共同研究の意味などについて、意見交換しました。

(2) 自主研究会

2010年度は新たに3つの新しい研究会が開設され、計14の自主研究会となりました。新しくできた研究会は「福祉事業の協同組合間協同に関する研究会」「日韓の生協研究会」「生協はどう生産にかかわれるか研究会」です。

①生協と福祉研究会 代表：上掛利博氏（京都府立大学）、ほか6名

7/17 『分かちあい』の経済学（岩波新書 神野直彦著）を読んだ意見交換会

9/7 読後意見交換会（生協の福祉まちづくりへの挑戦：「福祉のひろば」）他

10/6 「これからの地域福祉と生協の役割」

… コープひろしまの高田さんが『地域福祉研究会報告書』について紹介

11/11 『誰もが安心して暮らせる地域づくり』（日生協「地域福祉研究会」）他

12/6 「生協と福祉」をめぐる問題提起他

「ワンストップサービスから“全人福祉”へ～日生協『地域福祉研究会報告書』
によせて～」

- 1/10 「生協と福祉」をめぐるブックレットづくりの提起
「公的介護保険制度の評価をめぐる～日生協『地域福祉研究会報告書』によ
せて（２）～」他
- 2/7 「地域包括ケア研究会報告書」など
- 3/22 「ケアの社会学入門」

- ②尾崎経済思想史サロン 代表：久保建夫氏（研究委員）、ほか7名
7/21、11/10
3/2 「世界史の構造（柄谷行人）」の検討

- ③生活圏市場研究会 代表：三好正巳氏（立命館大学名誉教授）、ほか8名
8/7、10/30、
2/11 TPPと協同組合～生活圏市場への一つのアプローチを目指して～

- ④食育研究会 代表：あざみ祥子氏（コンシューマーズ京都）、ほか11名
7/7、10/19-21、11/25

- ⑤現代生協研究会 代表：田中秀樹氏（広島大学）、ほか8名

- ⑥地域と医療研究会 代表：高山一夫氏（京都橘大学）、ほか2名

- ⑦食の懇話会 代表：北川太一氏（福井県立大学）、ほか6名
7/6 第18回総会シンポジウム・分科会のふりかえり、メンバーの問題関
心
小浜調査の検討
9/6 コープひろしま専務との懇談
2/8 小浜調査の準備

- ⑧現代家族研究会 代表：中川順子氏（立命館大学）、ほか4名
9/22、11/11、11/25、12/7、1/27、2/8：分析とまとめ
※2/22 コープしが「組合員協議委員会」にて報告（中川、吉村、齋藤）
3/1 調査報告のとりまとめ

- ⑨土佐くらし研究会 代表：玉置雄次郎氏（高知短期大学名誉教授）、ほか7名
10/29 農村交流施設「森の巣箱」との交流、研究
12/17 フィールド調査の計画

⑩えひめ・くらしと協同の研究会

代表：向井康雄氏（愛媛大学名誉教授）、ほか8名

⑪生協経営研究会 代表：若林靖永氏（京都大学）、ほか5名

- 10/6 シンポジウムの振り返り
- 2/10 今後の活動について
- 3/7 おおさかパルコープ調査にむけての学習
- 4/4.5 おおさかパルコープ調査

⑫福祉事業の協同組合間協同に関する研究会

代表：鈴木 勉氏（佛教大学）、ほか6名

- 8/25、ヘルスコープおおさかの介護保険事業の推移と現状
- 12/14 おおさかパルコープ福祉事業活動の到達、
組合員主体の調査活動を通して福祉事業体づくりを考える企画案他
- 3/3 組合員調査の枠組み検討

⑬日韓の生協研究会 代表：秋葉 武氏（立命館大学）、ほか2名

⑭生協はどう生産にかかわれるか研究会

代表：服部典夫氏（生活協同組合コープしが）、
ほか8名

- 7/30 「農事組合法人サンファーム法養寺」のとりくみ
- 9/9、 「ユリサファーム・サン愛ブレンド」のとりくみ
- 10/20 「針江のんきふあーむ」のとりくみ
- 11/24 農業生産法人(株) ハートランドひろしま視察研修

IV. 会員への情報提供・出版・講師紹介

(1) 『協う』の発行

- 10月号特集では「『価格』を考える」
 - 12月号特集では「生協として『ソーシャルビジネス』を考える」
 - 2月号特集「『地産地消』再考」
 - 4月号特集「『温故知新』～20世紀の生協に学ぶ21世紀の生協」
- 編集委員会 7/20、8/6、10/1、11/12、12/3、1/14、2/14、3/11 4/8

(2) 報告書の発行

- ①「第18回総会記念シンポジウム報告集」（通巻56号）

- ② 特別研究会「くらしの調査プロジェクト報告書」(通巻57号)
- ③ 「第12回組合員理事トップセミナー報告集」(通巻58号)

(3) 講師活動・講師紹介

- 7/6 杉本貴志氏 京都生協行政区委員研修会
- 7/14 北川太一氏 「地域の再生に協同組合は何かできるのか～協同組合の理念と原則から考える」第88回国際協同組合デー岩手県集會
岩手県協同組合提携協議会主催、地産地消いわて協同組合協議会共催
- 9/7 杉本貴志氏 「協同組合の歴史と現在：生協に期待される理念、価値、役割を考えるために」京都府生協連 理事長懇談会
- 9/15 杉本貴志氏 「生協運動の新段階～“母国”の歴史と現状から見えてきたもの」日本生協労働組合ネットワーク(JCWネットワーク)
- 10/2～3 北川太一氏 「日本の食と農の再生」鳥取産直フォーラム
COOP牛乳産直交流協会主催
- 10/27 上掛利博氏 「地域と生協」生協労連・政策委員会 京都大谷婦人会館
- 11/14 上掛利博氏 「2010年度トップ共育」ゲスト・コメント 福祉クラブ生協
オルタナティブ生活館(横浜市)
- 12/13 杉本貴志氏 組合員学習会 おおさかパルコープ主催
- 1/22 杉本貴志氏 「協同組織運動と労働者の待遇・労働条件
～協同組合にとって「労働」とは何だったのか～」
2011年春闘討論集會 全国農林漁業団体職員労働組合連合
- 1/31 杉本貴志氏 「生協にとっての社会的役割」大阪府生協連政策討論集會
- 2/18 中川順子氏 「家族とつながりの現在-家族劣化とつながり格差-を考える」
役職員研修会 島根県生活協同組合連合会
- 2/22 中川順子氏 「家族調査の中間報告会」コープしが 組合員協議委員会

以上のほかにも団体会員はじめ他団体からの講師依頼や要請、問い合わせなどが多数ありました。

V. 研究所運営

(1) 企画委員会の強化

- ①企画委員会は研究所の「事業計画の原案を検討」(「くらしと協同の研究所 規約 第27条第3項」より抜粋)する場であると同時に、実践家と研究者がどのような問題意識や研究課題をもっているのかをお互いにすりあわせる大切な場でもあります。
- ②日常的に研究者と実践家との意見交流を活発にすることが重要であり、その要として企

画委員会の役割を強化してきました。

③その具体化として、松田達也氏（生活協同組合コープしが）と鈴木勉氏（佛教大学教授）をあらたに企画委員に推薦し、現在の中村健二氏、大島芳和氏、福西啓次氏、北村英和氏、井上英之氏、上掛利博氏、増田佳昭氏に加え、実践家と研究者ともメンバーを増員し委員会を強化しました。

また、研究所として柱となる研究課題を企画委員会での研究者と実践家の問題意識からの活発な意見交流と議論、運営委員会での論議から明確にできるような運営を目指しました。

(2) 機関運営会議の開催経過など

①第18回総会

6/26 実出席54 委任出席117 合計171（過半数107）

②理事会・常任理事会

11/20 第1回常任理事会、第1回理事会

4/16 第2回理事会

③企画委員会について

9/14 第1回企画委員会を開催

第19回総会シンポジウムの企画について

11/9 第2回企画委員会を開催

2/10 第4回企画委員会

3/24 第5回企画委員会（くらしの調査プロジェクトの報告含む）

4/28 第6回企画委員会

④研究委員会、運営委員会について

(研究委員会)

11/6 第1回研究委員会

事例研究：京都生協の中期計画 ～事業の社会的役割を中心に～

1/22 第2回研究委員会

公開研究討論会：堀越芳昭氏、近本総子氏

4/9 第3回研究委員会

研究討論会：増田佳昭氏

(運営委員会)

7/16 第1回運営委員会を開催

- 9/17 第2回運営委員会
- 10/15 第3回10月運営委員会
- 11/19 第4回11月運営委員会
- 12/17 第5回12月運営委員会
- 1/28 第6回1月運営委員会
- 2/18 第7回2月運営委員会【話題提供】岡安喜三郎氏（協同総研）
- 2/25 第8回2月運営委員会
- 3/18 第9回3月運営委員会【話題提供】橋本吉広氏（地域と協同の研究センター）
- 4/15 第10回4月運営委員会
- 5/20 第11回5月運営委員会

⑤監事会

5/12

(3) 研究所間の交流、提携

研究所交流会が4/2 に開催され、事務局2名が参加しました。

(4) 会員

(2010/3/21～2011/3/20)

個人会員（賛助会員含む）

(入会) 6名

(退会) 17名 計185名

団体会員（賛助会員含む）

入会・退会なし 計39団体

(5) 事務局体制

事務局長	北村英和（専務理事）*2011年3月11日より兼任
事務局員	長壁猛 大角尚子
客員研究員（非常勤）	久保建夫
院生事務局	望月康平（京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻） 加賀美太記（京都大学大学院経済学研究科後期博士課程）

(第2号議案)

2011年度 活動方針及び予算

<2011年度活動の基調>

格差や貧困の広がり、年金や雇用などの将来不安を抱え、今でも厳しい暮らしが、日本社会の構造変化が急速に進展する中で、ますます厳しくなることが予測されています。また、高齢化や単身世帯の増加など家族の変化、「孤立化」が社会問題になるなか、人と人のつながりや協同の意味が問い直されています。

さらに地球規模では、環境や食料問題の深刻化、地震や異常気象による大規模災害が増加するなかで、持続可能な社会の実現に向けて、協同組合の積極的な役割発揮に期待がよせられています。

そのような中で、東日本大震災が発生しました。暮らしや経済がこれまでの予測を超えて厳しくなることは必至であり、生協経営もますます厳しくなると考えられます。同時に復旧から復興にむけて、協同組合や生協の役割がますます大きくなっているともいえます。「協同組合がよりよい社会を築きます」のスローガンで開催される「国際協同組合年」と大震災の現実をふまえ、これからの社会の姿、暮らしや労働のありかたなどについて、研究所として活発な討論と研究の場を設けて、協同組合や生協に役立てられるようにしていきます。

今まさに、日本社会は大転換の時期であり、このような中で、10年先の社会を展望して、協同組合や生協の役割、今後のありかたについて研究していくことが極めて重要であるといえます。2011年度から2012年度は、研究所としての真価が問われる年として位置づけて、会員、研究者が力を合わせて活動をすすめます。そして、その成果を「国際協同組合年」と「暮らしと協同の研究所設立20周年」の記念とも合わせて、出版物などを通して会員はじめ多くの人に見えるようにしていきます。

<2011年度のおもな活動>

総会記念シンポジウムや、研究委員会、運営委員会、企画委員会での論議を、研究所の核となる研究課題につなげていくために、公開研究会や研究交流会などを計画します。また、テーマによっては、研究会の活動とも連携して企画を具体化します。

研究者と実践家との情報や問題意識の交流を大切して運営し、会員に役立つ研究所になるように努めます

I. 研究企画・セミナー・シンポジウム

1. 公開研究会、研究交流会、公開講座

①研究委員会や理事会の開催時にあわせて企画するとともに、ほかの機会にも計画

的に開催します。

②研究会とも連携した企画も検討します。

③テーマとして以下のようなものが考えられていますが、他のテーマも含めて、企画委員会、運営委員会で具体化します。

- ・大震災を経験して、これからの暮らし、協同組合や生協の役割について、事例も参考にして深める。
- ・TPP について研究者の専門分野から問題提起いただき討論する。
- ・経営研究会と連携し、生協の実践事例を参考にして、今後の生協の事業のありかたや職員の働き方について深める。
- ・日本のエネルギー政策（特に電力）と、これからの暮らし方や労働のありかたについて考える。
- ・福祉事業における協同組合らしさや生協らしさについて考える。

2. スタディツアー

①姫路医療生協調査の前提として課題発見につながるようにスタディツアーを企画します。（9月頃）

②他にも研究テーマにつながる企画を検討します。

3. 第12回生協組合員理事トップセミナー

①今年度は12月3日（土）4日（日）に、コープイン京都で開催します。

②これまでの到達を踏まえ、国際協同組合年の直前であることを意識した企画を、呼掛け人会議を中心にして、研究者が協力し具体化します。

4. 第20回総会記念シンポジウム（2012年6月30日・7月1日予定）

①今年の論議の到達を踏まえ、国際協同組合年に相応しい企画として具体化します。

②さらに、研究所設立20周年記念の「第21回総会記念シンポジウム」（2013年6月予定）の企画に発展させます。

II. 研究会

1. 総会記念シンポジウムの論議を踏まえて、中長期的視野で核となる研究課題を明確にし、相応しい研究会が発足できるように準備します。

2. 核となる研究会、特別研究会、自主研究会の位置づけやありかたについて検討します。

3. 各自主研究会は活動計画（総会当日配布）にもとづきすすめます。

III. 会員への情報提供、出版、講師紹介

1. 『協う』の普及をするとともに、雑誌化（季刊）を検討します。

2. 「協同組合の歴史、理念」の基礎テキストを作成し、広く活用できるようにします。

3. 自主研究会「現代家族研究会」（代表：中川順子氏）の調査報告書の発行を予定します。
4. 講師紹介など、団体会員の要請に応える活動を引き続きすすめます。

IV. 研究所の運営

1. 委員会の内容充実に努めます。特に企画委員会を引き続き強化します。
2. 研究所の活動を魅力的なものにするなかで、計画的に会員の拡大をすすめます。